

定期作業報告

令和4年11月
(11月20日現在)



北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬が平年より高く、中旬がやや高く、下旬が高かった。月平均気温は6.6℃で平年より高かった(+1.8℃)。降水量は上旬、中旬、下旬とも少なく、月合計は9.5mmで平年より少なかった(-42.0mm)。日照時間は上旬・下旬がやや多く、中旬が平年並であった。月合計は221.8時間で平年並であった(+30.0時間)。

5月：平均気温は上旬、下旬が平年並で、中旬が極めて高かった。月平均気温は12.7℃で平年よりやや高かった(+1.3℃)。降水量は上旬がやや多く、中旬が少なく、下旬が多かった。月合計は61.0mmで平年並であった(+3.0mm)。日照時間は上旬・中旬がやや多く、下旬がやや少なかった。月合計は198.1時間で平年並であった(+16.8時間)。

6月：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬がやや高く、下旬が高かった。月平均気温は14.3℃で平年よりやや低かった(-0.7℃)。降水量は上旬が少なく、中旬が平年並、下旬が多かった。月合計は83.0mmで平年並であった(+3.0mm)。日照時間は上旬が少なく、中旬が平年並、下旬がやや少なかった。月合計は112.8時間でやや少なかった(-54.7時間)。

7月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬が平年並、下旬が低かった。月平均気温は20.3℃で平年並であった(+0.5℃)。降水量は上旬がやや多く、中旬が極めて多く、下旬が多かった。月合計は213.0mmで平年より極めて多かった(+133.3mm)。日照時間は上旬がやや多く、中旬がやや少なく、下旬が少なかった。月合計は148.6時間で平年並であった(-32.2時間)。

8月：平均気温は上旬が平年並で、中旬・下旬とも平年よりやや高かった。月平均気温は20.0℃で平年並であった(+0.4℃)。降水量は上旬が平年並、中旬が極めて多く、下旬がやや少なかった。月合計は216.0mmで平年よりやや多かった(+54.7mm)。日照時間は上旬・中旬・下旬とも平年並であった。月合計は137.9時間で平年並であった(+1.7時間)。

9月：平均気温は上旬・中旬・下旬ともやや高かった。月平均気温は16.7℃で平年よりやや高かった(+0.8℃)。降水量は上旬が少なく、中旬が多く、下旬が平年並であった。月合計は96.5mmで平年並であった(-6.4mm)。日照時間は上旬が多く、中旬が平年並、下旬がやや多かった。月合計は186.5時間で平年並であった(+29.6時間)。

10月：平均気温は上旬が平年並、中旬が平年より高く、下旬がやや高かった。月平均気温は9.2℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。降水量は上旬が多く、中旬が少なく、下旬が平年並であった。月合計は82.0mmで平年並であった(-1.8mm)。日照時間は上旬・中旬・下旬とも平年並であった。月合計は159.0時間で平年並であった(-6.1時間)。

11月：平均気温は上旬が平年並、中旬が平年よりやや高かった。中旬までの平均気温は3.6℃で平年並であった(+0.4℃)。降水量は上旬・中旬とも平年より少なかった。中旬までの合計は8.5mmで平年より少なかった(-42.0mm)。日照時間は上旬が平年より多く、中旬が平年並であった。中旬までの合計は104.7時間で平年よりやや多かった(+19.3時間)。

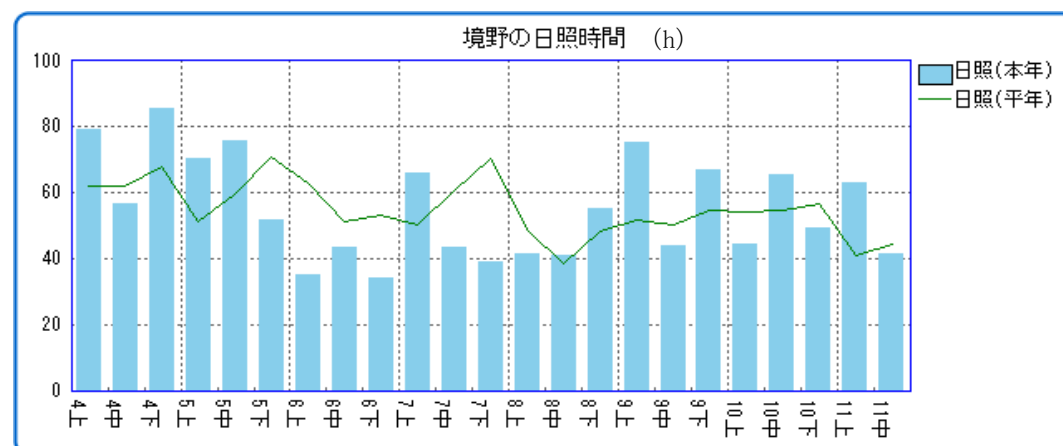
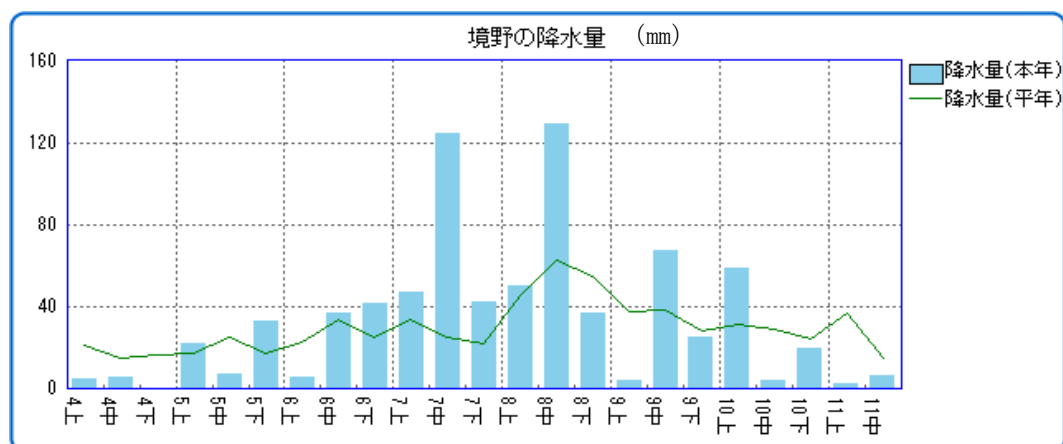
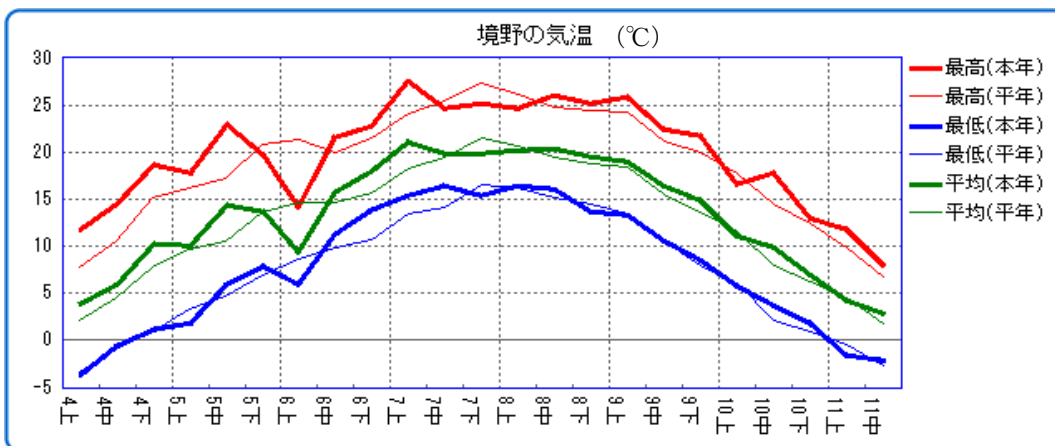
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量および日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月はやや高く、6月はやや低く、7月・8月は平年並、9月はやや高かった。この期間の日平均気温の積算値は2443.4℃であった(平年差+3.9℃、平年比100%)。

降水量：5月、6月は平年並、7月は極めて多く、8月はやや多く、9月は平年並であった。この期間の降水量の積算は449.5mmであった(平年差-41.5mm、平年比92%)。

日照時間：5月は平年並、6月はやや少なく、7月・8月・9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算値は747.5時間であった(平年差-4時間、平年比99%)。

2) 気温、降水量および日照時間の平年との比較



3) 気象表

年月	旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
2022年	上旬	3.8	2.1	1.7	11.7	7.7	4.0	-3.7	-3.3	-0.4	4.5	20.9	-16.4	79.4	61.8	17.6
4月	中旬	5.9	4.6	1.3	14.5	10.6	3.9	-0.5	-1.0	0.5	5.0	14.8	-9.8	56.9	62.1	-5.2
	下旬	10.2	7.8	2.4	18.6	15.2	3.4	1.1	0.9	0.2	0.0	15.9	-15.9	85.5	67.9	17.6
	平均	10.0	9.7	0.3	17.8	16.2	1.6	1.9	3.4	-1.5	21.5	17.1	4.4	70.3	51.2	19.1
5月	中旬	14.4	10.6	3.8	22.9	17.2	5.7	5.9	4.7	1.2	6.5	24.4	-17.9	76.1	59.4	16.7
	下旬	13.6	13.6	0.0	19.6	20.8	-1.2	7.9	7.0	0.9	33.0	16.5	16.5	51.7	70.8	-19.1
	平均	9.4	14.6	-5.2	14.2	21.3	-7.1	5.9	8.6	-2.7	5.5	22.1	-16.6	35.4	63.1	-27.7
6月	中旬	15.7	14.6	1.1	21.5	20.0	1.5	11.3	9.9	1.4	36.5	33.4	3.1	43.3	51.4	-8.1
	下旬	17.9	15.7	2.2	22.8	21.5	1.3	13.9	10.7	3.2	41.0	24.6	16.4	34.1	53.0	-18.9
	平均	21.1	18.3	2.8	27.6	24.0	3.6	15.4	13.4	2.0	46.5	33.3	13.2	66.0	50.2	15.8
7月	中旬	19.9	19.4	0.5	24.6	25.4	-0.8	16.4	14.2	2.2	124.5	24.7	99.8	43.6	60.3	-16.7
	下旬	19.9	21.5	-1.6	25.2	27.4	-2.2	15.3	16.5	-1.2	42.0	21.7	20.3	39.0	70.3	-31.3
	平均	20.2	20.7	-0.5	24.6	26.2	-1.6	16.4	16.2	0.2	50.0	44.8	5.2	41.3	48.9	-7.6
8月	中旬	20.3	19.4	0.9	26.0	24.7	1.3	16.1	15.2	0.9	129.5	62.2	67.3	41.1	38.7	2.4
	下旬	19.5	18.8	0.7	25.1	24.4	0.7	13.7	14.4	-0.7	36.5	54.3	-17.8	55.5	48.5	7.0
	平均	19.0	18.4	0.6	25.9	24.3	1.6	13.3	13.5	-0.2	4.0	37.0	-33.0	75.4	51.8	23.6
9月	中旬	16.4	15.5	0.9	22.4	21.2	1.2	10.5	10.5	0.0	67.5	38.1	29.4	44.1	50.3	-6.2
	下旬	14.8	13.6	1.2	21.8	19.9	1.9	8.5	8.0	0.5	25.0	27.8	-2.8	67.0	54.7	12.3
	平均	11.1	11.6	-0.5	16.5	17.7	-1.2	5.8	6.0	-0.2	59.0	31.2	27.8	44.3	54.2	-9.9
10月	中旬	9.8	8.0	1.8	17.7	14.4	3.3	3.7	2.2	1.5	3.5	28.6	-25.1	65.4	54.5	10.9
	下旬	6.9	6.3	0.6	13.0	12.4	0.6	1.8	0.9	0.9	19.5	24.1	-4.6	49.3	56.4	-7.1
	平均	4.3	4.6	-0.3	11.7	9.9	1.8	-1.6	-0.4	-1.2	2.5	36.2	-33.7	63.2	41.0	22.2
11月	中旬	2.8	1.8	1.0	8.0	6.8	1.2	-2.1	-2.6	0.5	6.0	14.3	-8.3	41.5	44.4	-2.9
	平均	13.3	12.7	0.6	19.7	18.7	1.0	7.7	7.3	0.4	769.5	668.0	101.5	1269.4	1264.9	4.5
4月	平均	6.6	4.8	1.8	14.9	11.2	3.7	-1.1	-1.2	0.1	9.5	51.5	-42.0	221.8	191.8	30.0
5月	平均	12.7	11.4	1.3	20.1	18.1	2.0	5.3	5.1	0.2	61.0	58.0	3.0	198.1	181.3	16.8
6月	平均	14.3	15.0	-0.7	19.5	20.9	-1.4	10.3	9.7	0.6	83.0	80.0	3.0	112.8	167.5	-54.7
7月	平均	20.3	19.8	0.5	25.8	25.7	0.1	15.7	14.8	0.9	213.0	79.7	133.3	148.6	180.8	-32.2
8月	平均	20.0	19.6	0.4	25.2	25.1	0.1	15.3	15.2	0.1	216.0	161.3	54.7	137.9	136.2	1.7
9月	平均	16.7	15.9	0.8	23.4	21.8	1.6	10.8	10.7	0.1	96.5	102.9	-6.4	186.5	156.9	29.6
10月	平均	9.2	8.5	0.7	15.6	14.7	0.9	3.7	3.0	0.7	82.0	83.8	-1.8	159.0	165.1	-6.1
11月(中旬まで)	平均	3.6	3.2	0.4	9.9	8.4	1.5	-1.8	-1.5	-0.3	8.5	50.5	-42.0	104.7	85.4	19.3

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	通常の根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	2021.10.17	2021.12.18	2022.04.06	110	2022.05.04	2022.04.18	2022.05.09	2022.10.07	150	2022.11.14
平年	10.13	12.07	04.08	124	04.27	04.23	05.08	10.15	159	11.04
比較	4	11	-2	-14	7	-5	1	-8	-9	10

期間	項目	平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
	5月上旬 ～	本年	2443.4	449.5
10年平均		2439.5	491	751.5
9月下旬	比較	3.9	-41.5	-4.0

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。
平年値は前10か年の平均値である。

付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (m ²)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株 本数	播種粒数 (粒/m ²)	播種量 (kg/10a)	株数 (株/10a)
1. 秋まき小麦 令和3年播種	5.4	4	ひまわり	20	ドリル	—	255	—	—
令和4年播種	5.4	4	ひまわり	20	ドリル	—	255	—	—
2. 春まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30	条播	—	340	—	—
3. とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75	17.8	1	—	—	7,491
4. 大豆	9.6	3	緑肥そば	60	20	2	—	—	8,333
5. 小豆	9.6	3	緑肥そば	60	20	2	—	—	8,333
6. 菜豆	9.6	3	緑肥そば	60	20	2	—	—	8,333
7. ばれいしょ	37.8	3	緑肥えん麦	75	30	1	—	—	4,444
8. てんさい	39.6	3	緑肥野生えん麦	60	23.8	1	—	—	7,003
9. 牧草 (チモシー)	2.7	4	緑肥えん麦	30	条播	—	—	2.0	—

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P2O5	K2O	MgO	堆肥	その他	
1. 秋まき小麦 令和3年播種	5.6	17.5	7.0	3.5	—	起生期追肥 N : 5.0	(*) 令和5年4月に予定
令和4年播種	5.6	17.5	7.0	3.5	—	起生期追肥 N : 5.0(*)	
2. 春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	—	炭カル : 150	平成27年より変更
3. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000		
4. 大豆	1.8	15.0	7.8	3.0	—		
5. 小豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
6. 菜豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
7. ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0	—		
8. てんさい	15.0	30.0	12.3	6.8	—	〔 造成時 炭カル : 200 ダブリン : 30 〕	2年目草地 年間3回分施
9. 牧草 (チモシー)	15.0	15.0	15.0	3.0	—		

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（令和3年9月播種） 作況：不良

月	作況	事由
令和4年 11月20日	不良	<p>播種期は平年より7日早い9月16日であった。出芽期は平年より7日早い9月23日であった。播種が早く、出芽期以降の平均気温が平年並から高く経過したため、越冬前の草丈、茎数は平年を上回った。根雪始は平年より11日遅い12月18日、根雪終は平年より2日早い4月6日で、積雪期間は平年より14日短かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が根雪の観測地点より10日早い3月27日で、雪腐病の発生は僅かに認められた。</p> <p>コムギ縞萎縮病が発生し、萎縮症状が認められた。出穂期は平年より1日早い6月7日であった。登熟期間は降水量が多い傾向で推移したものの、気温は6月下旬は高く、7月上旬は極めて高く推移したため、成熟期は平年より2日早い7月23日で、登熟期間は平年より1日短かった。稈長は平年並であった。コムギ縞萎縮病により生育が抑えられたこと、穂長、穂数が平年をやや下回ったこと、7月上旬を除いた登熟期間の日照時間がやや少なかったことにより、子実重は平年比63%であった。リットル重は平年をやや上回り、千粒重は平年を下回った。検査等級は1等であった。</p> <p>これらのことから、本年の作況は「不良」である。</p>

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目/年次		本年	平年	比較
播種期	(令和3年月.日)	9.16	9.23	△ 7
出芽期	(令和3年月.日)	9.23	9.30	△ 7
出穂期	(令和4年月.日)	6.07	6.08	△ 1
成熟期	(令和4年月.日)	7.23	7.25	△ 2
草丈 (cm)	(令和3年11月20日)	19.6	14.1	5.5
	(令和4年5月20日)	33.3	37.3	△ 4.0
	(令和4年6月20日)	82.5	86.9	△ 4.4
茎数 (本/m ²)	(令和3年11月20日)	1316	960	356
	(令和4年5月20日)	1364	1254	110
	(令和4年6月20日)	800	740	60
成熟期	稈長 (cm)	79	79	0
	穂長 (cm)	7.6	8.3	△ 0.7
	穂数 (本/m ²)	646	688	△ 42
子実重 (kg/10a)		489	779	△ 290
同上平年比 (%)		63	100	△ 37
リットル重 (g)		808	801	7
千粒重 (g)		38.6	40.8	△ 2.2
品質 (検査等級)		1	1	-

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、令和2年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 秋まき小麦（令和4年9月播種） 作況：やや良

月	作況	事由
令和4年 11月20日	やや良	播種期は平年より7日早い9月16日であった。出芽期は平年より8日早い9月22日であった。播種が早く、出芽期以降、平均気温が平年より高い傾向で経過したため、越冬前の草丈、茎数は平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目/年次		本年	平年	比較
播種期	(令和4年月.日)	9.16	9.23	△7
出芽期	(令和4年月.日)	9.22	9.30	△8
出穂期	(令和4年月.日)		6.09	
成熟期	(令和4年月.日)		7.25	
草丈 (cm)	(令和4年11月20日)	19.7	13.5	6.2
	(令和5年5月20日)		34.8	
	(令和5年6月20日)		84.0	
茎数 (本/m ²)	(令和4年11月20日)	1643	853	790
	(令和5年5月20日)		1301	
	(令和5年6月20日)		707	
成熟期	稈長 (cm)		77	
	穂長 (cm)		2.7	
	穂数 (本/m ²)		650	
子実重 (kg/10a)			705	
同上平年比 (%)			100	
リットル重 (g)			795	
千粒重 (g)			40.1	
品質 (検査等級)			1	-

注) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和4年(最凶)を除く5か年の平均。

3) 春まき小麦 作況：不良

月	作況	事由
11月20日	不良	<p>調査圃場は融雪剤散布により3月26日に融雪期となった。3月下旬から4月上旬の気温は高く、降水量は少なかったため、圃場の乾燥が進み、播種期は平年より5日早い4月11日となった。播種後の4月中下旬の気温は高く、出芽期は5日から6日早かった。出穂期は平年より1～3日早かった。稈長、穂長、穂数は平年並であった。7月18日の激しい降雨によって倒伏が発生した。成熟期は平年より6日早く、登熟期間は平年より3～5日短かった。さらに登熟期間の日照時間は少なかった。倒伏が多発生であった「春よ恋」は、千粒重が著しく低下し子実重は平年比82%であった。倒伏が微発生した「はるきらり」は、千粒重はやや軽かったが、子実重は平年比107%であった。両品種の子実重の平均値は、平年比94%であった。リットル重は両品種とも平年をやや下回った。検査等級は1等であった。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「不良」である。</p>

作況データ

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	4.11	4.16	△ 5	4.11	4.16	△ 5	
出芽期 (月・日)	4.24	4.29	△ 5	4.25	5.1	△ 6	
出穂期 (月・日)	6.19	6.20	△ 1	6.16	6.19	△ 3	
成熟期 (月・日)	7.31	8.6	△ 6	8.3	8.9	△ 6	
草丈(cm)	(5月20日)	26.1	19.5	6.6	28.9	20.5	8.4
	(6月20日)	76.2	69.8	6.4	77.6	69.7	7.9
茎数(本/m ²)	(5月20日)	986	607	379	965	581	384
	(6月20日)	792	820	△ 28	754	799	△ 45
稈長(cm)	(7月20日)	93	95	△ 2	93	90	3
穂長(cm)	(7月20日)	8.4	8.3	0.1	7.6	7.7	△ 0.1
穂数(本/m ²)	(7月20日)	718	707	11	712	702	10
子実重(kg/10a)		444	541	△ 97	552	518	35
同上平年比 (%)		82	100	△ 18	107	100	7
リットル重 (g)		767	791	△ 25	768	787	△ 19
千粒重 (g)		34.9	39.1	△ 4.2	38.5	39.9	△ 1.4
品質 (検査等級)		1	1	-	1	1	-

注) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況： 平年並

月日	作況	事由
11月20日	平年並	播種期は平年より1日遅い5月17日、出芽期は平年より14日遅い6月13日であった。播種期前後の乾燥や低温により発芽が遅れ、7月中旬から8月上旬にかけての低温、多雨および寡照により徒長傾向で生育し、雄穂開花期は平年より9日遅く、絹糸抽出期は7日遅かった。8月中旬以降の気温は平年よりやや高く推移したことで、登熟は平年並に進んだ。収穫期は平年より2日遅い9月28日であり、収穫時の熟度は黄熟初期で平年並、稈長は平年より23cm高かった。総体の乾物率は平年より4.6ポイント低かった。乾物茎葉重が平年より多かったものの、乾物雌穂重は平年よりやや少なく、乾物総重および推定TDN収量は平年比103%および101%と平年並であった。 以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

生育データ

調査項目	KD320			
	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.17	5.16	1	
出芽期 (月・日)	6.13	5.30	14	
開花期 (月・日)	8.10	8.01	9	
抽糸期 (月・日)	8.08	8.01	7	
収穫期 (月・日)	9.28	9.26	2	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期	-	
草丈(cm)	(6月20日)	14.3	32.8	△ 18.5
	(7月20日)	154.8	169.1	△ 14.3
	(8月20日)	298.5	270.8	27.7
稈長(cm) (9月20日)	267	244	23	
葉数(枚)	(6月20日)	2.4	5.7	△ 3.3
	(7月20日)	10.5	13.4	△ 2.9
	(8月20日)	15.0	15.4	△ 0.4
生総重(kg/10a)	7839	6468	1371	
乾物茎葉重(kg/10a)	1109	976	133	
乾物雌穂重(kg/10a)	951	1023	△ 72	
乾物総量(kg/10a)	2061	1998	63	
同上平年比 (%)	103	100	3	
推定TDN収量(kg/10a)	1454	1437	17	
同上平年比 (%)	101	100	1	
総体の乾物率 (%)	26.3	30.9	△ 4.6	
乾雌穂重割合 (%)	46.3	51.1	△ 4.8	
有効雌穂割合 (%)	100	100	0.0	

注1) 今年度から調査品種を「KD320」に変更。平年値は前4か年の平均。

注2) 推定TDN収量=乾物茎葉重×0.582+乾物雌穂重×0.850。

注3) 乾物収量や割合に関する一部の項目は、小数点以下の四捨五入などの計算方法により、表中の数値をもとに計算しても一致しない場合がある。

5) 大豆

作 況：良

月日	作況	事由
11月20日	良	播種は平年より1日早い5月20日に行った。6月上旬は著しい低温となり、出芽期は平年より8日遅い6月11日であった。その後は高温傾向に転じ、開花始めは平年並の7月19日だったが、初期生育は抑制傾向であった。その後の生育と着莢、登熟は順調で、成熟期は平年より5日遅い9月27日で、登熟期間は平年より5日長かった。平年と比較して、成熟期の主茎長、主茎節数、分枝数はいずれも下回ったが、着莢数は9%多かった。一莢内粒数は平年を下回ったが百粒重は26%重く、子実重は平年の125%と多収であった。屑粒率は低く、外観品質は優った。 以上のことから、本年の作況は「良」である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
調査項目		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.20	5.21	△ 1.0
出芽期	(月.日)	6.11	6.03	8.0
開花始	(月.日)	7.19	7.19	0.0
成熟期	(月.日)	9.27	9.22	5.0
主茎長 (cm)	(6月20日)	4.4	10.6	△ 6.2
	(7月20日)	41.0	48.3	△ 7.3
	(8月20日)	64.2	63.6	0.6
	(9月20日)	62.2	63.8	△ 1.6
	(成熟期)	60.7	64.0	△ 3.3
本葉 数(枚)	(6月20日)	0.2	0.8	△ 0.6
	(7月20日)	7.2	7.3	△ 0.1
主茎節数	(8月20日)	10.4	10.6	△ 0.2
	(9月20日)	9.9	10.3	△ 0.4
	(成熟期)	9.9	10.3	△ 0.4
分枝数 (本/株)	(7月20日)	3.3	4.3	△ 1.0
	(8月20日)	5.6	5.5	0.1
	(9月20日)	4.4	4.8	△ 0.4
	(成熟期)	3.7	4.9	△ 1.2
着莢数 (個/株)	(8月20日)	78.5	77.6	0.9
	(9月20日)	75.5	72.0	3.5
	(成熟期)	77.7	71.2	6.5
一莢内粒数		1.75	1.93	△ 0.18
子実重(kg/10a)		412	329	83
同上平年比 (%)		125	100	25
百粒重 (g)		38.5	30.5	8.0
屑粒率 (%)		0.6	1.5	△ 0.9
品質 (検査等級)		1等	2上	—

注1) 平年値は前7か年中、28年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

6) 小豆

作況：良

月日	作況	事由
11月20日	良	<p>播種は平年より1日早い5月20日に行った。6月上旬は著しい低温傾向となり、出芽期は平年より10日遅い6月17日であった。6月末の降雨後に生育は回復し、生育は旺盛となった。開花始は平年並で、着莢と登熟は順調に進み、成熟期は平年と比較して6～7日早かった。平年と比較して成熟期の主茎長は長く、主茎節数はやや多く、分枝数は同等、着莢数は3割以上多かった。一莢内粒数は同等からやや少なく、百粒重はやや軽かったが、子実重は「エリモショウズ」で平年比108%、「きたろまん」で120%と多収であった。屑粒率は低かったが、等級は色むらが指摘されわずかに劣った。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「良」である。</p>

生育データ

調査項目	エリモショウズ			きたろまん			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.20	5.21	△ 1	5.20	5.21	△ 1	
出芽期 (月.日)	6.17	6.07	10	6.17	6.07	10	
開花始 (月.日)	7.25	7.25	0	7.25	7.24	1	
成熟期 (月.日)	9.25	10.01	△ 6	9.23	9.30	△ 7	
主茎長 (cm)	(6月20日)	2.0	4.0	△ 2.0	2.4	3.8	△ 1.4
	(7月20日)	21.8	17.0	4.8	21.2	16.0	5.2
	(8月20日)	79.7	65.6	14.1	83.6	67.3	16.3
	(9月20日)	88.0	68.3	19.7	96.1	71.7	24.4
	(成熟期)	87.2	69.3	17.9	93.2	70.5	22.7
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.1	0.4	△ 0.3	0.0	0.4	△ 0.4
	(7月20日)	7.4	6.5	0.9	6.8	6.2	0.6
主茎節数	(8月20日)	14.0	14.3	△ 0.3	14.1	13.5	0.6
	(9月20日)	14.3	14.3	0.0	14.0	13.4	0.6
	(成熟期)	14.7	14.1	0.6	14.4	13.5	0.9
分枝数 (本/株)	(7月20日)	3.0	1.8	1.2	2.3	1.5	0.8
	(8月20日)	4.5	4.0	0.5	2.3	3.3	△ 1.0
	(9月20日)	4.5	4.1	0.4	2.8	3.4	△ 0.6
	(成熟期)	4.2	4.2	0.0	3.4	3.4	0.0
着莢数 (個/株)	(8月20日)	46.7	36.7	10.0	43.1	33.8	9.3
	(9月20日)	62.1	52.3	9.8	56.1	48.8	7.3
	(成熟期)	67.1	50.8	16.3	65.1	47.6	17.5
一莢内粒数	6.17	6.45	△ 0.28	6.18	6.2	△ 0.02	
子実重(kg/10a)	399	370	29	424	353	71	
同上平年比 (%)	108	100	8	120	100	20	
百粒重 (g)	14.5	16.0	△ 1.5	16.8	17.2	△ 0.4	
屑粒率 (%)	1.9	8.8	△ 6.9	3.5	5.4	△ 1.9	
品質 (検査等級)	4中	4上	—	4中	4上	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

7) 菜豆

作 況：良

月日	作況	事由
11月20日	良	播種は平年より1日早い5月20日に行った。6月上旬は著しい低温となり、出芽期は平年より2日遅い6月4日であった。出芽後も低温により初期生育は抑制傾向だったが、6月末の降雨後に急激に生育が旺盛となり、開花始は平年より1日早い7月9日だった。着莢と登熟は順調で成熟期は平年より1日遅い9月4日であり、平年と比較して草丈は長く、主茎節数と分枝数は同等、着莢数はやや多かった。一莢内粒数はわずかに少なく、百粒重は重く、子実重は平年の124%と多収であった。小粒や色流れ粒が少なく、屑粒率は平年を下回り、等級も優った。以上のことから、本年の作況は「良」である。

生育データ

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.20	5.21	△ 1	
出芽期 (月.日)	6.04	6.02	2	
開花始 (月.日)	7.09	7.10	△ 1	
成熟期 (月.日)	9.04	9.03	1	
草丈 (cm)	(6月20日)	5.0	10.9	△ 5.9
	(7月20日)	44.9	38.0	6.9
	(8月20日)	48.3	43.5	4.8
	(成熟期)	48.3	42.8	5.5
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.2	0.7	△ 0.5
	(7月20日)	3.3	3.9	△ 0.6
主茎節数	(8月20日)	5.0	5.5	△ 0.5
	(成熟期)	5.3	5.5	△ 0.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.1	5.4	△ 1.3
	(8月20日)	4.5	5.0	△ 0.5
	(成熟期)	5.2	5.0	0.2
着莢数 (個/株)	(8月20日)	24.2	20.6	3.6
	(成熟期)	23.9	20.6	3.3
一莢内粒数	2.70	2.82	△ 0.12	
子実重 (kg/10a)	366	296	70	
同上平年比 (%)	124	100	24	
百粒重 (g)	73.0	65.6	7.4	
屑粒率 (%)	5.4	25.8	△ 20.4	
品質 (検査等級)	3上	4上		

注1) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和3年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 子実重は水分15%換算。

注3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

馬鈴しよ

8) 馬鈴しよ 作 況：平年並

月日	作況	事由
11月20日	平年並	<p>植え付けは平年並の5月11日に行った。5月中旬の気温が高かったため、萌芽期は平年より3～4日早かった。開花始は平年より1～3日早かった。6月下旬以降は降水量がかなり多く、また日照時間は平年を下回る期間が長かったため、両品種ともに生育は軟弱であった。</p> <p>早生の「男爵薯」では、枯ちよう期が平年より1日遅い9月1日であった。上いもの平均重、上いもの数がともに平年をわずかに上回ったため、上いもの重は平年比108%であった。晩生の「コナユタカ」では、枯ちよう期が平年並の10月14日であった。上いもの数は平年より少なかったものの、上いもの平均重が大きく、上いもの重は平年比99%と平年並であった。しかし、でん粉価は平年よりも1.6%低かったため、でん粉重は平年比94%とやや下回った。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「平年並」である。</p>

生育データ

調査項目	男爵薯			コナユタカ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.11	5.11	0	5.11	5.11	0	
萌芽期 (月.日)	5.26	5.30	△ 4	5.29	6.01	△ 3	
開花始 (月.日)	6.28	6.29	△ 1	7.01	7.04	△ 3	
枯ちよう期 (月.日)	9.01	8.31	1	10.14	10.14	0	
茎長(cm)	(6月20日)	22.7	23.3	△ 0.6	11.6	13.4	△ 1.8
	(7月20日)	56	54	2	82	77	5
	(8月20日)	59	54	5	119	97	22
茎数(本/株)	(6月20日)	3.3	3.9	△ 0.6	2.0	2.7	△ 0.7
	(7月20日)	3.4	4.3	△ 0.9	3.0	2.8	0.2
上いもの重(kg/10a)	(8月20日)	5251	4849	402	3693	3911	△ 218
	(9月20日)	5161	4766	395	5032	5613	△ 581
でん粉価(%)	(8月20日)	16.4	15.2	1.2	18.8	19.0	△ 0.2
	(9月20日)	14.9	15.2	△ 0.3	19.4	21.0	△ 1.6
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	-	-	-	926	1117	△ 191
上いもの数(個/株)		10.6	10.3	0.3	7.1	8.5	△ 1.4
上いもの平均重(g)		109	106	3	210	175	35
上いもの重(kg/10a)		5161	4766	395	6431	6475	△ 44
同上平年比(%)		108	100	8	99	100	△ 1
でん粉価(%)		14.9	15.2	△ 0.3	20.4	21.5	△ 1.1
でん粉重(kg/10a)		-	-	-	1244	1328	△ 84
同上平年比(%)		-	-	-	94	100	△ 6

注) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和3年(最豊)を除く5か年の平均

9) てんさい

作 況：不良

月日	作況	事由
11月20日	不良	<p>移植栽培の播種は、平年より1日遅い3月24日に行った。以降、4月中旬まで気温が高めに経過したため、育苗期間中の苗の生育は非常に良好であった。移植は、平年より2日早い5月2日に行った。前日まで土壌は乾燥していたが、移植直前の降雨で土壌が適湿となったため、活着は良好であった。その後は乾燥傾向が続き、5月上旬の強風もあいまって生育が抑制された。</p> <p>直播栽培の播種は、平年より1日遅い5月6日に行った。播種時およびそれ以降に土壌が乾燥傾向であったため、出芽期は平年より1日遅い5月18日であったものの、出芽揃いが例年よりやや劣った。</p> <p>5月中旬以降に続いた乾燥傾向は5月27～28日の降雨で解消したものの、6月上旬の低温、寡照傾向のため、6月中旬まで生育は抑制された。</p> <p>7月以降の多雨で地上部の生育が旺盛になり、草丈および茎葉重は平年を上回って推移したが、根部の肥大は回復が遅れた。</p> <p>その後、多雨傾向は収穫期まで続き、地上部生育は平年を上回る傾向であったが、根部の生育は平年を下回った。</p> <p>収穫は、平年より1～2日遅い10月21日に行った。</p> <p>最終的に、茎葉重は平年を上回ったが、根重は平年をやや下回った。根中糖分は、夏期の気温が高めに推移したことや9月中旬から10月上旬までの多雨の影響もあって、平年をやや下回った。このため、糖量は平年を下回った。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「不良」である。</p>

生育データ

調査項目	移植						直播			
	アンジー			アマホマレ			アンジー			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.24	3.23	1	3.24	3.23	1	5.06	5.05	1	
移植期 (月.日)	5.02	5.04	△ 2	5.02	5.04	△ 2	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.18	5.17	1	
収穫期 (月.日)	10.21	10.19	2	10.21	10.19	2	10.21	10.20	1	
草丈 (cm)	(5月20日)	7.2	6.5	0.7	6.6	7.0	△ 0.4	-	-	-
	(6月20日)	15.0	24.7	△ 9.7	16.4	25.8	△ 9.4	10.6	14.0	△ 3.4
	(7月20日)	58.7	52.3	6.4	61.3	52.9	8.4	60.9	47.9	13.0
	(8月20日)	65.1	57.8	7.3	69.3	59.0	10.3	68.2	59.5	8.7
	(9月20日)	67.0	58.9	8.1	71.3	61.4	9.9	70.2	61.0	9.2
生葉数 (枚)	(5月20日)	7.5	6.1	1.4	4.8	5.0	△ 0.2	-	-	-
	(6月20日)	11.9	12.4	△ 0.5	11.4	11.6	△ 0.2	7.2	8.8	△ 1.6
	(7月20日)	22.2	21.0	1.2	22.7	20.2	2.5	21.1	18.9	2.2
	(8月20日)	27.2	27.9	△ 0.7	24.7	25.9	△ 1.2	25.5	26.1	△ 0.6
	(9月20日)	27.4	30.5	△ 3.1	23.4	28.8	△ 5.4	26.5	27.6	△ 1.1
茎葉重 (g/個体)	(5月20日)	0.9	1.2	△ 0.3	0.9	1.4	△ 0.5	-	-	-
	(6月20日)	25	76	△ 51	24	81	△ 57	8	13	△ 6
	(7月20日)	579	497	82	661	551	110	589	337	252
	(8月20日)	973	764	209	983	824	159	956	690	266
	(9月20日)	766	740	26	858	840	18	805	716	89
根重 (g/個体)	(6月20日)	5	16	△ 11	5	19	△ 14	0	1.0	△ 1
	(7月20日)	247	270	△ 23	245	265	△ 20	169	125	44
	(8月20日)	764	738	26	678	735	△ 57	637	571	66
	(9月20日)	1015	1031	△ 16	934	1028	△ 94	797	854	△ 57
根周 (cm)	(7月20日)	22.4	23.5	△ 1.1	21.8	23.0	△ 1.2	21.2	17.7	3.5
	(8月20日)	34.1	34.0	0.1	31.0	32.7	△ 1.7	33.0	30.4	2.6
	(9月20日)	37.2	38.1	△ 0.9	35.8	37.5	△ 1.7	35.0	35.1	△ 0.1
根中糖分 (%)	(9月20日)	16.47	16.50	△ 0.03	17.02	16.90	0.12	16.28	16.70	△ 0.42
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)	5884	4814	1070	6727	5494	1233	6318	4726	1592
根重(kg/10a)	(収穫期)	7185	7661	△ 476	6915	6982	△ 67	6434	6478	△ 44
同上平年比 (%)		94	100	△ 6	99	100	△ 1	99	100	△ 1
根中糖分 (%)	(収穫期)	17.59	18.50	△ 0.91	18.15	19.10	△ 0.95	17.52	18.60	△ 1.08
同上平年比 (%)		95	100	△ 5	95	100	△ 5	94	100	△ 6
糖量(kg/10a)	(収穫期)	1264	1412	△ 148	1254	1331	△ 77	1127	1209	△ 82
同上平年比 (%)		90	100	△ 10	94	100	△ 6	93	100	△ 7

注1) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)平成28年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 本年から、調査品種を「リッカ」から「アンジー」に換えて供試。

10) 牧草 (チモシー)

作 況 : 良

月日	作況	事由
11月20日	良	<p>1 番草：萌芽期は平年より2日早い4月18日で、冬損は認められなかった。6月上旬が平年より低温であったものの、5月下旬および6月中旬は平年並からやや高温で推移したことから、出穂始は平年より1日早い6月9日、出穂期は平年と同日の6月14日であった。刈取時の草丈および出穂程度は平年並であり、乾物収量も平年比102%と平年並であった。</p> <p>2 番草：収穫は平年より3日遅い8月8日に行った。1番草収穫後は十分な降水量があったため、収穫時の草丈は平年より19cm高く、節間伸長程度も平年より高かった。乾物収量は平年比178%と非常に多く、1番草との合計乾物収量は平年比123%であった。</p> <p>3 番草：収穫は平年より1日遅い10月3日に行った。2番草収穫（8月8日）以降の気温は平年より高く、降水量は8月下旬から9月上旬を除き平年並から多く推移した。収穫時の草丈は40cmと平年並であったものの、乾物収量は平年より19%少ない101kg/aであった。一方で、年間合計乾物収量は平年比117%と多収であった。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「良」である。</p>

生育データ

品種名 調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月. 日)	4.18	4.20	△ 2
冬損程度		1.0	1.2	△ 0.2
被度 (%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始 (月. 日)		6.09	6.10	△ 1
出穂期 (月. 日)		6.14	6.14	0
出穂程度	1番草	7.8	7.2	0.6
節間伸長程度	2番草	6.0	4.1	1.9
収穫日	1番草	6.17	6.16	1
	2番草	8.08	8.05	3
	3番草	10.03	10.02	1
倒伏程度	1番草	1.0	1.0	0.0
病害罹病程度	1番草	1.0	1.0	0.0
	2番草	2.0	2.4	△ 0.4
	3番草	2.0	3.1	△ 1.1
草丈(cm)	(5月20日)	37	40	△ 3
	(6月5日)	67	73	△ 6
	1番草	93	96	△ 3
	2番草再生時	47	39	8
	2番草	85	66	19
	3番草再生時	36	36	0
生草収量 (kg/10a)	3番草	40	38	2
	1番草	2,504	2,375	129
	2番草	1,253	822	431
	1 + 2番草計	3,757	3,197	560
	3番草	307	436	△ 129
乾物率 (%)	合計	4,064	3,633	431
	1番草	22.3	23.2	△ 0.9
	2番草	29.7	25.6	4.1
乾物収量 (kg/10a)	3番草	32.9	28.7	4.2
	1番草	557	549	8
	同上平年比 (%)	102	100	2
	2番草	371	208	163
	同上平年比 (%)	178	100	78
	1 + 2番草計	928	757	171
	同上平年比 (%)	123	100	23
	3番草	101	124	△ 23
	同上平年比 (%)	81	100	△ 19
合計	1,029	882	147	
同上平年比 (%)	117	100	17	

注1) 平年値は前7か年のうち平成28年(最豊)、令和3年(最凶)を除いた前5か年の平均値。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。